

2020年3月26日

徳島県教育委員会 教育長 様

子どもと教育・くらしを守る徳島県教職員の会

代表世話人 岡田美和子

ゆきとどいた教育をめざす徳島県連絡会

代表世話人 山本 正美

◇連絡先 徳島市川内町鶴島115-1 黄金ビル1階 ☎ 088 - 665 - 6644

新型コロナウイルス問題に関わって

「学力テスト」「ステップアップテスト」の中止等を求める 緊急要請書

徳島県教育のためにご尽力いただいていますことに感謝し、敬意を表します。

さて、新型コロナウイルス感染対策として、政府から全国の小・中・高・特別支援学校への休校要請が行われ、徳島県でもすべての学校で休校措置がとられました。集団感染を防ぐための休校措置とのことでしたが、突然の発表により、各学校や関係者に混乱が生じました。また、クルーズ船関係を除けば、徳島県内で感染者が確認されていないなかでの一斉休校が妥当であったのかという疑問が残ります。今後、「全国一斉休校」「徳島県一斉休校」問題についての検証がなされてしかるべきかと考えます。

徳島新聞（3月3日付）の報道によると、那賀町内の学校が3月「18日～24日に小中学校の登校日を設ける予定」であったにもかかわらず、県教委から、『休校は全県で同時期が望ましい』と指摘され、春休みまで休校期間を延ばした」とのことです。本来、休校措置は、学校設置者の判断にゆだねられるものです。新聞報道が事実であるならば、県教委の対応は、地方自治を否定することになりかねません。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、4月に予定されていた小学校6年生・中学校3年生対象の「全国学力・学習状況調査」（以下、「学力テスト」）の延期が文科大臣より発表されました。今回の休校措置等の異常事態において必要なことは、行政調査によって子どもたちの「学力」を測ることではなく、一人ひとりの学びの様子を丁寧に把握し、各校で教育課程を再構成し、子どもたちの学力を保障することだと考えます。

そもそも、学力テストをめぐることは、競争が各自治体・各学校・各教員・子どもたちに持ち込まれ、点数をあげるために事前の「過去問題」練習に相当の授業があてられ、本来の教育や日々の教育活動がゆがめられ、教員の多忙化の大きな原因になっているとの指摘がなされています。また、多額の国費がつぎ込まれています。

学力テスト対策の一つである徳島県独自の「ステップアップテスト」（小学校4・5年生、中学校1・2年生）の入力作業等にも多くの時間が使われています。

こうしたなか、有害無益な全国一斉学力テストやステップアップテストを、延期ではなく、中止・廃止し、教職員増員などの教育条件整備にあてるべきとの声が高まっています。

新学期が始まると、一斉休校で未履修となった学習内容等を補うべく、授業時数を増やす取り組みなどが予想されます。しかし、それは、多忙な教育現場を極限にまで多忙化するもので、子どもたちや教職員の心身の健康を害するおそれがあります。そうならないようにするために、学力テストや徳島県独自のステップアップテストを中止し、それにかかわる「過去問題」の練習等もやめて、通常の授業に充てることが不可欠だといえます。

以上の趣旨により、貴委員会に下記のことを緊急に要請いたします。

記

1. 文科省に、「学力テスト」の中止を要望すること。
2. 徳島県立中学校は「学力テスト」に参加しないこと。
3. 徳島県独自の「ステップアップテスト」を中止にすること。
4. 「学力テスト」「ステップアップテスト」「休校措置」等での市町村の独自判断を尊重すること。

以上